

極楽寺だより



2018(平成30)年11月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

秋の永代経法要のご案内

次の通りお勤めいたしますので、お誘いあわせの上、お参り下さいますようお願いいたします。

十一月 十三日(火)

昼一時半 夜七時半

十一月 十四日(水)

昼一時半

講師 俵山 正福寺住職

上原 泰教師

昼間お仕事の方は、ぜひ夜席にお参り下さい。

永代経法要とは

住職が子どもの頃は、山を



走り回って遊んでいました。しかし、今は大人でもなかなか入ることができません。なぜなら、山に入る人がいなくなつたことで、道がなくなつてしまつたからです。先に行く人が踏みしめる歩みによつて、道はできるのです。私たちのところにまで、お念仏の教えが伝わつてきたのも、先だつてこの道を歩まれたご先祖があるから、志を納めお寺を護つてこられた先輩方があるからなのです。そして次に歩む者がなければ、道は途絶えてしまいます。永代経法要とは、永代にわたリ伝えられたこのみ教えを感謝と共にいただき、永代にわたり伝えていこうという尊い営みなのです。

ご予約下さい

- ◇12月18日14時 仏婦報恩講
- ◇12月31日夜23時45分 除夜の鐘撞き
- ◇1月1日10時 元旦会
- ◇1月14~16日 御正忌報恩講

お取越しの季節です

お寺にご連絡下さい。
日程を調整した上で、
お参りにうかがいます。



「お取越し」とは、真宗寺院において最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」を、ご命日よりも取越して（早めて）各家々で勤めるといふ、真宗門徒にとって大切な伝統行事です。でも、どうして親戚でもない人の法事を勤めなくてはならないのでしょうか。そこには、大切な心が込められているのです。

お取越しを
お勤め
しましょう
キャンペーン

「みんな」のお寺



先日、「今でしょ！」でお馴染み、予備校講師でタレントの林修先生の番組で、京都・宇治にある平等院鳳凰堂の特集をしていました。十円玉や一万円札に描かれ、世界遺産にも指定された有名な寺院です。2014年に五十六年ぶりの修理が終わり、創建時の美しい外観によりみがえったことで、今や数多くの観光客が訪れ、内部の拝観は平日でも長時間を待たなければならぬのだとか。出演者の方々も、こだわり抜かれたその美しさに、圧倒されたようでした。

平等院は、阿弥陀如来のお浄土を表わしています。その点については、浄土真宗のお寺の荘厳と同じです。しかし建物の性格は、まったく違います。そもそも、建てられた理由からして違うのです。

平等院は、1052年関白・藤原頼通によって創建されました。平安時代、権力を握っていた藤原氏の中でも、最も栄華を極めた頃のものです。頼通のお父さんである藤原道長は、「この世をばわが世とぞ思ふ望月のかけたることみなしと思へば」（この世は、自分のためにあるようなものだ。満月の欠けたことがないように、自分の思いどおりにならないことはない）と歌ったことで有名な人。いくら権力者といえども、なかなかここまで言えませんが、それほど栄えていたということでしょう。そして平等院は、現世のみならず「この栄華が、死後の世界にも続くように」



いたということでしょう。そして平等院は、現世のみならず「この栄華が、死後の世界にも続くように」

という願いによって建てられたものでした。もちろんその願いの中には、庶民しよみんの存在は入っていません。つまり、藤原氏ふじわらしのためのお寺なのです。今でこそ、私のような庶民も拝観料はいかんりようさえ払えば入れますが、当時では考えられないことでした。林先生の番組に、時折出演ときわりされる本郷和人ほんごうかずと東京大学教授は、平安貴族へいあんきぞくは「民衆みんしゆうのことなど考えもしなかっただろう」と言われています。しかし当時の感覚かんかくでは、それが当たり前あたりのまへだったのです。

ところが鎌倉時代かまくらじだいに入ると、状況じやうきやうは大きく変わります。本郷先生は「鎌倉幕府とは何かを一言でいうならば、在地ざい勢力ちせうりきよくの自立じりつです。／貴族に相手にもされていなかった在地の勢力が、自分の土地を自分で守り、連合れんごうして自前じまえの秩序ちつじよを作ろうとした動きが、鎌倉幕府の成立せいりつにつながったのです。」(『日本史のツボ』本郷和人)と言われています。

それは宗教しゆきやう的な救いすくについても、同様でした。

鎌倉時代には、法然聖人ほうねんしやうにんや親鸞聖人しんらんしやうにんに代表されるように、鎌倉新仏教かまくらしんぶつぎやうとよばれる新たなムーブメントが起ります。これらの教えが武士や民衆に広がったのは、これまでの仏教では救い



法然聖人

の外にいた人たちが、自前じまえの救済きゆうさいを求めたからでした。「一部の人」のための仏教が、「みんな」の仏教へと、本来ほんらいの輝かがやきを取り戻したと言えるのかもしれませんが。

中でも象徴しやうちゆうてき的てきなのが、親鸞聖人のお師匠・法然聖人と熊谷直実くまがいなおぎねの関係かんけいです。直実なおぎねは平敦盛たいらのあつもりを討うち取とったことで知られる源氏の猛将もうじやうです。(直実と敦盛の関係は、「人間五十年 下天の内をくらぶれば」という一節で知られる、幸若舞こうわかまい『敦盛』に描かれています)

彼は、法然聖人と出会い「自分を救ってくれる教えに初めて会った」と、涙を流し帰依きえしました。そして法然聖人のボディガード的存在せつしやうになるのですが、摂政せつしやう・関白かんぱくを歴任れきにんした最上位さいじやうゐの貴族きぞくである九条兼実くじやうかねざねが、法然聖人を招まねいたときのこと。直実なおぎねは身分が低いからと屋敷やしきに入れてもらえませんでした。そこで「この世俗せぞくの世ほど悔くやしいものはない、浄土じやうとにはこんな差別さべつはないはずだ」と嘆なげきます。ここに「差別」という概念がいねんが、日本史上はじめて用もちいられました。それまで当たり前だと思っていたことに憤いきどおりを感じ、平等びやうびやうに対する切実きせつじつな希求ききゆうが生まれたのです。

また、鎌倉幕府の設立から五十年ほどして第五代執権しつけんの北条ほうじやう





時頼は、「撫民」ということを言い出します。つまり民を可愛がり、大事にしなくては駄目だと、幕府のトップが説くようになるのです。これは、平安貴族とはまったく異質な発想です。ここにも浄土宗の強い影響があります。『日本史のツボ』本郷和人も「ちなみに浄土真宗のお寺は、貴族や権力者、お金持ちの寄進で建てられたものではありません。庶民が「みんな」で建てたお寺です。「一部の人のためのものではなく、「みんな」の救いのために建てられた、「みんな」のお寺なのです。」

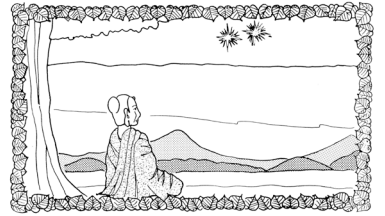
平等院との違いを、ご理解いただけただけでしょうか。そして法然聖人や親鸞聖人の教えが、どれほど当時の社会に、そして現代の私たちに影響を与えたのかということも。

そういえばインターネットに、平等院でガイドさんの説明を聞いた人が、こんな書き込みをしていました。「平等院は、身分によって入れる場所が決まっていたそうですが、これって、どう考えても不平等ですよ？平等院じゃなくて、「不平等院」じゃないですか？」

これも、法然聖人や親鸞聖人がおられたからこそ、言えることなのかもしれません。■



仏事、葬儀、納骨・・・、わからないこと、困ったことがあれば、
極楽寺にご相談下さい。どうぞ、ご遠慮なく 0837 (43) 0625



極楽寺揭示伝道 けいじてんどう



11月の言葉

二つの大きな町に挟はさまれたオアシスに、一人の老人が座すわっていま
した。通りかかった男が老人に尋たずねます。

「これから隣となりの町に行くのですが、この先の町はどんな町ですか？」
老人は答えずに聞き返しました。

「今までいた町は、お前にとってどんな町だった？」

男はしかめっ面つらをして、
「たちの悪い人間が多くて、汚きたない町ですよ。」

だから、隣の町に行ってみようと思ったのです」

と言うと、老人は、

「お前がそう思っているなら、隣の町も、たちの悪い人間が多い、
汚きたない町だろうよ」

と答えました。

しばらくすると、先ほどの男と同じ町から、別の男がやって

きました。その男は、同じように老人に尋ねます。

「これから隣の町に行くのですが、この先の町はどんな町です
か？」

やはり老人は、答えずに聞き返しました。

「今までいた町は、お前にとってどんな町だった？」

男はにこやかに、

「親切しんせつな人が多くて、きれいな町です」。

と言うと、老人はこう答えたそうです。

「なるほど、お前がそう思うなら、隣の町も親切な人間が多い、

きれいな町だよ」 (『もの見方が変わる 座右の寓話』戸田智弘)

同じ場所にいても、見える景色けしきは捉とらえ方かたによって大きく変わります。

同じ人たちと暮くらしていても、こちらの受け止め方で、印象いんじょうは

まったく違います。

思い通りにならないからと、周囲しゅういに不ふ満まんと不平ふへいを抱かかえている人

は、どこに行っても「たちが悪い人間が多い、汚きたない町」としか感じ

られないでしょう。逆に、自分に向けられている思いや願いを味あじわ

い、恩おんを受けたと感じることができれば、どこに行っても「親切

な人間が多い、きれいな町」と受け止められる。見方、受け止め方

全国四十七都道府県で、どの県の人が一番幸せを感じているかを調べる、けんみんべつこうふくどちょうさ県民別幸福度調査というものがありません。内閣府や新聞社や大学、どこが調査しても、必ずじょうい上位に入るのが福井県、富山県、石川県の北陸三県なのだとか。そうあいだいがく相愛大学の金児かねこ暁嗣先生の調査・研究によると、中でも福井県民は「お陰かげさま」意識が非常に高く、日常的に「お陰さま」という言葉をよく使うのだそうです。

「陰」とは、目に見えない、気づかない世界をあらわします。目に見えない世界に支えられ、生かされているという感謝の思いが、「陰」という字にわざわざ「お」と「さま」をつけて



「お陰さま」という言葉になったのでしよう。この言葉を金児かねこ先生は、「他者たしやへの信頼しんらいと安心あんしん」をあらわしているしてきと指摘されています。また、「不安な事態じたいになった時に、しずめてくれる働き、緊張緩和きんちやうかんわの働きが認められる」とも言われているのです。(『大乘』2015年3月号「釈徹宗の随縁対談」)

では、どうして「お陰さま」意識が高いのか。実は、この三県は浄土真宗がとても盛さかんな地域なのです。浄土真宗は、阿弥陀様のはたらきによって救われていく教えです。目には見えない阿弥陀

様のはたらきを受け止め、その恵みの中でご恩を感じ報むくいていく教えなのです。自分がしたことよりも、してもらっていることを大切にします。だから、私に向けられている思いや願いを感じるセンサーかんどの感度も、自然と高まっていく。「お陰さま」意識が高まるはずです。金児先生も、浄土真宗の信仰と北陸の幸福度には、密接みつせつな関係があると指摘されています。

ちなみに、世界で一番不幸な国とされているのが、東欧のモルドバ共和国です。この国は、トルコやロシアならびにソ連、ルーマニアの間で占領・併合せいごうが繰り返されてきました。その結果、この国の生活はほぼすべての面で、信頼しんらいと協力関係きやうりやくかんけいが失われてしまったと言われます。誰も他者の利益になるようなことはしない。自分のことしか考えられない。モルドバ人の意識は「私の知ったことではない」という一言であらわされるのだとか。

(『残酷すぎる成功法則』エリック・バーガー)
まさに、周りの人びとを「たちが悪い人間」としか見ることができないう。旅の男のようです。こんな社会は、本当に生きづらいと思えます。歴史に翻弄ほんろうされてきたモルドバの人々にとって、まさに悲劇だと言えるでしょう。

では、私たちはどんな生き方を求めているのでしょうか。

してもらっていることから目を背け、人間関係をすべて煩わしいものとして切り捨て、「オレは人に迷惑をかけていない」「誰の世話にもなっていない」、そして「私の知ったことではない」と孤立を深める。そんな悲劇的な社会を、自ら求めているのではないのでしょうか。

目には見えないけれども、この私を支え、生かしてくださいさる世界があるのです。その世界に気づかれた先輩方の歩みが、「お陰さまと言える人生に孤独はない」のだと教えてくださっているのです。

「お陰さま」の生き方に歩み出した姿を、オアシスの老人が見たら、きつとこんな声をかけてくれるのではないかと思います。

「なるほど、お前がそう思うなら、隣の町も親切な人間が多い、きれいな町だよ」と。■

※ 仏教は「どんなに正しいことでも、偏ってはいけない」という教えです。今回のように、「してもらっていること、恵まれていることに目を向けよう」という提言は、偏ってしまうと「不平不満は言うな。黙ってすべて受け入れろ」と、他者の発言を頭ごなしに封じめるような態度につながりかねません。そうなると、本当に苦しんでいる人たちの、悲しみの声まで踏みつぶしてしまいます。残念ながら、そのような文脈で使われた歴史もありました。注意したいものです。



10月の言葉

あるスキー場に、こんな看板があったそうです。

「ころぶな!!!」:誰も、ころぼうと思つて、ころんでいるわけではありません。いくら注意しても、ころぶときはありますし、私のような経験も浅く、下手な者はころぶのです。それを「ころぶな!!!」と言われてしまうと、身も蓋もありません。「スキー場に来るな!!!」と言われることと同じです。

近頃は、人間が本来持っている愚かさや弱さへの配慮がなくなつてはいないでしょうか。強さ賢さ正しさばかりが求められ、失敗に対して冷たく厳しい社会になつていのように感じます。間違いを起こした人への社会的制裁は、行き過ぎではないかと思うほど過激です。生活保護受給者へのバッシングをはじめ、弱い立場の人へのまなざしも、どんどん冷たくなっています。2016年に起きた相模原市での障害者殺傷事件は、その最たるものでしょう。

最近の若い人たちが、少し怒られただけで会社を休んだり、



辞めたりするのも、親の過保護だけではないのかもしれない。

失敗した人たちへの冷たい仕打ちを見ることで、「失敗してはならない」と恐れながら育ってきた。だから、小さなつまづきでも「もう、終わりだ」と思ってしまう、立ち上がることができなくなっているのではないか。そんなことさえ思うのです。

しかし人間ですから、気をつけても失敗します。なりたくなくても病気になるますし、一生懸命頑張っても結果が出ないときもあります。経験が浅ければ、尚のこと。そんな人間の事実を思いやることが、失われてはいないでしょうか。にもかかわらず、「失敗するな！」と頭ごなしに言われては、身も蓋もありません。「生きるな！」と言われることと同じです。そんな社会で生きようとすれば、自分の失敗は認められなくなります。あとは、人に責任を押しつけるしかありません。

自分の弱さを知っているからこそ、相手を思いやれるのではないですか。自分の愚かさを知るからこそ、人に大らかにもなれる。弱さを持った者同士が、お互い様と思いやりながら、励まし助け合いながら生きる方が、出遇いも広がり、豊かに



生きることができないのではないのでしょうか。

日本を代表する随筆『徒然草』で、作者の吉田兼好は「友達にならない方が良いタイプ」をあげています。その中の一つに「病な、身強き人」とあります。（『徒然草』第百十七段）なぜなら、体が丈夫で病気をしない人は、体が弱く病気がちの人の気持ちかわからないから。

これは何も、「健康な人とは、友だちの縁を切れ」ということではないのでしょうか。



弱い立場の心がわからない、想像することもない人間になってはいないかという促しだと、私は受け止めています。順調な時にはわからない世界があり、つまずいた時にこそ気づかされる大切なことがあるのです。

親鸞聖人も、人間の弱さや愚かさを大切にされた方でした。私は、親鸞聖人の生き方から「人間は失敗する。いや、失敗するのが人間なのだ。だから、開き直れということではなく、それをどう受け止めていくのかが問われるのだ」と教えられました。失敗してはならないのではなく、失敗やつまづきを通して見えてきたことを、どう活かしていくのかが大切なのだと。

あるお寺で、定期的な法座がありました。そこでは講師が問いを投げかけ、それを参加者の人たちで話し合いながら考えていく「話し合い法座」という形式をとられていました。そこで講師から、「なぜ仏法を聴聞するのでしようか」という問いが出されたのです。

最初に、最近参加しはじめられた年配の方が、「私はこの頃、自分がもう少し善い人間になれたらと思って来ているのだが」と発言されました。

すると、若い男性の方が、「それは無理です。そういうことなら、聴聞してもだめです」と言われたのです。年配の方はカチン！と来たのでしよう。怒った口調で「聴聞して、なぜ良い人間になれないのか。おかしいじゃないか。では、何のために聴聞するんだね」と問いただされました。そこで若い男性の方は、こう言われたそうです。「私は、この会に来るようになって十年になりますが、聞けば聞くほど、自分の悪いことばかりがわかってきて、とてもじゃないが善い人間になることはできない自分に気づかされます。だからといって、開き直っているわけではありません。かえって、できるだけ悪いことはしないようにと、心掛けるようになりました」と。

自分の悪いことばかりがわかる教えというのは、嫌ですね。誰も自分の悪口など聞きたくありません。しかし、この若い男性の

方は、十年も法座に通われている。それは何故でしょうか。この方は、悪口を聞きに来るわけではないからです。

自分の悪いことがわかるといことは、日頃見落としていた大切なことに気がついたということでしょう。阿弥陀様の心を味わうほどに、「あっ、あれも見落としていた」「こんな失礼なことをしていたのか」と、自分の姿に気付かされる。今まで気づきもしなかった、失敗やつまずきを指摘される。しかしそれは、阿弥陀様の心を通して知らされた、大切なことなのです。若い男性の方は、大切なことを聞くために、十年間も通っておられたのだと思うのです。

「大切なことを知らされた」と受け取るか、「悪口」と受け取るかでは、その後の人生は全く違うものになります。同様に、失敗やつまずきを、「恥ずかしいこと」として目を背けるか、「世界が広がるきっかけ」と捉えるかでは、世界の見え方が違ってきます。

念仏詩人・榎本栄一さんは、

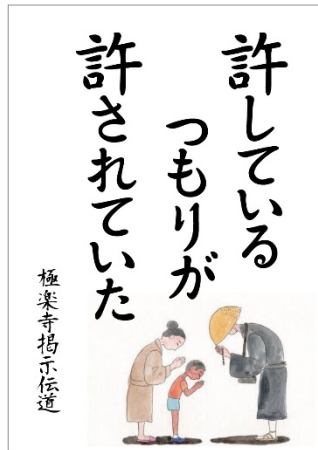
「またひとつ しくじった

しくじるたびに 目があいて 世の中すこし広くなる」



という詩を書いておられます。失敗やつまずきは、正直辛いことで
す。しかし、そこから大切なことに気づかされ、世界が広がれば、
尊いご縁といただけるでしょう。

「つまずいた石」が、やがて「踏み台」だと感じられるようにな
ったとしたら、それは私の生き方が、少し広がり、豊かになったと
いうことなのです。目を背けては、もったいない。しっかりと、受
け止めていきたいものです。 ■



9月の言葉

南無阿弥陀仏のお念仏を称えることは、「胸に手を当てる」こと
に通じるのではないかと、私は考えています。近頃は、「胸に手を
当てる」と言わなくなりました。胸に手を当て、我が身を振り返る。
その営みを通して上で、それでも言わねばならない言葉には重み
も深みもあります。しかし、胸に手を当てることのないままに、

発せられる言葉は無責任です。薄っぺらく、軽く、人を簡単に傷つ
けます。そんな言葉がインターネットを中心に飛び交い、今やテレ
ビだけではなく、責任ある立場の方々からも聞こえてくる。そんな
時代になっているのではないのでしょうか。

お笑い芸人の千原せいじさんという方がおられます。ガラの悪さ
とガサツさで笑いをとられています。裏表なく言語や国境、
人種を超えてどんな人にも対等に付き合い、いつしか尊敬されると
ても魅力的な方でもあります。

その千原せいじさんが、飛行機に乗った時のこと。小さな子ども
連れのお母さんも乗っておられ、その子が大声で泣きだしたとい
うのです。すると、一人のビジネスマンが「うるさい！お前母親だろ
う。静かにさせろ！」と、大声で怒鳴りました。

機内の空気が張りつめたその時、すつくと立ちあがったせいじさ
ん。そのビジネスマンに対して、

「おいっ！何偉そうに言うとなん
ん！お前もこんな時期があつて、

今おっさんやってるんやろ！お前
最初からおっさんやったみたいな

顔して何偉そうに言うとなんねん！



泣いてるぐらい我慢せい！」とブチ切れたというのです。周りの乗客は「よくぞ言ってくれた！」という雰囲気になりました。

ところが、そこに駆けつけたCAさん（昔でいうスチュワーデスさん）に取り押さえられ、退場させられたのは…、お母さんをかばったはずのせいじさんだったそうです。ガサツでガラスの悪さが裏目に出たのでしょうか…。

しかし、退場すべきはビジネスマンの方でしょう。私たちは皆、小さな頃があったのです。周りの方々に温かく見守られ、許され、育てられてきたのです。最初から大人だったわけではありません。そんなことは、胸に手を当てて考えればわかるはず。その事実を振り返ることなく「うるさい！」と怒鳴りつけるというのは、とても失礼な生き方です。それは子どもやお母さんに対してだけではなく、自分を見守り、許し、育ててくださった方々をも、踏みこむ行為です。

胸に手を当てた時に、私が許すよりも先に、許されていたことに気づく。それは同時に、温かな気持ちをも生み出します。独りで生きていくのではない。つながり合い、支えられて生きていくのだと、豊かな気持ちになるはずです。

南無阿弥陀仏とお念仏を称えることは、「胸に手を当てて考

える」ことと同じだと、私は思います。私を願ひ、支え、許してくださる阿弥陀様の世界に出遇うこと。その世界を通して、我が身を振り返ること。独りではない。多くのいのちと共に、阿弥陀様の願ひに生かされているのだと、温もりを感じることに。胸に手を当て、その事実が目覚めることが、自分自身の人生を、そして周りの方々の人生を、より豊かに尊くいただいでいく生き方を開くのだと、教えられるのです。

生かされて 生きてきた

生かされて 生きていく

生かされて 生きていこうと

手をあわす 南無阿弥陀仏

（「生きる」中村静村）



お知らせ

元世話人の小林英昭さん（下東方）がご往生されました。長年お世話いただき、本当に有難うございました。

また、豊原の世話人の重岡幸作さんが退任され、山中博之さんに新しく勤めていただきます。重岡さんは、なんと42年8ヶ月の長きにわたり、お世話いただきました。重岡さん、長い間有難うございました。山中さん、よろしくお願ひします。



長男・融也が、無事に得度をしました。

昨年、インフルエンザで強制退所となり、延期となっていました長男・融也の得度が、無事終わりました。いよいよ、僧侶としてのスタートです。どうぞ皆さま、お育てください。よろしくお願ひいたします。



極楽寺ホームページ ぽつぽつ更新中

極楽寺.com で、検索して下さい

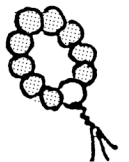


極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、住職はうれしいのです。

お寺まで、お持ち下さい。

お念珠
修理いたします



住職の



□広島カーブがセリーグ三連覇を果たしました。長らく低迷していたことに慣れてしまったからなのか、「こんなにうまくいって、良いんだろうか」と戸惑う気持ちでいる、今日この頃です。□カーブが強くなったのは、2015年に黒田博樹投手、新井貴浩選手が、帰ってきたことが大きかったようです。「あれほどの実績を残したベテラン選手が、誰よりも懸命に練習に取り組んでいた。それで、自分

を含めた若い選手が手を抜けなくなって、チームがひとつになれた」と、野村祐輔投手は語ります。四番バッターの鈴木誠也選手は、新井選手に対して「自分を犠牲にしても1点を取りに行く姿勢はすごい。チームプレーを本当に大事にしている」「あんな人を身近で見ることができたのは、自分の野球人生で大きいことだった」と感謝していました。自分の生き方や、枠組みを変えるほどの、素晴らしい出遇いだったのでしょうか。□ある人から、「“人の背中から学ぶ、”と言うが、現実はその簡単にはいかない。それは、尊敬せずにはいられない背中を見せてくれる先輩と、そこから学ぼうとする向学心の高い謙虚な後輩が二人揃って可能になること。ある意味、奇跡の出遇いではないか」と教えられました。確かに素晴らしい先輩がいても、学ぼうとする後輩がいなければ、出遇いは成り立ちません。□黒田投手に続き、今年新井選手も引退します。しかし、彼らの背中から学ぼうとしてきた頼もしい後輩たちは、来年以降も活躍してくれることと思います。そして私自身も、学ぼうとする姿勢を持たねばならないと思うのです。そうでなければ、素晴らしい出遇いを見落としてしまいそうで。■